令和４年度　奈良県立明日香養護学校　学校評価総括表

【特別支援学校用】

年度	令和４年（計画１年目）
教育目標	◇「明るく、強く、美しく」生きぬく人間づくり ◇ 児童生徒の自立と社会参加を目指した生きる力の育成
年間重点目標	◆ 適切な実態把握のための研修を充実させる　◆明日香のチーム力で安心安全な教育環境を継続させる　◆教職員一人一人が役割をもちそれぞれに力を発揮する。

運営方針	＊ 児童生徒の自立と社会参加を目指し、発達段階や障害の状況に応じた授業づくりや授業改善を推進する。 ＊ 家庭や医療、福祉等関係機関との連携を強化し、安心安全な教育環境づくりを推進する。 ＊ 教職員一人一人が学校運営の参画者であるという意識を持ち、それぞれの役割を果たす。

奈良県教育振興基本計画（「奈良の学び推進プラン」）が示す各テーマごとの学校教育目標

テーマ	学校の教育活動に関する目標(A)	計画期間における具体的目標(B)	令和４年度末の目標値等(C)	令和４年度末の状況(D)	自己評価(E)	学校関係者評価(F)
１．こころと身体を子どもの成長に合わせてはぐくむ	一人一人の実態に応じた身体機能の向上、生活動作の向上、及び精神面の健康状態の保持・改善	各家庭や関係機関との連携を図り、動作の学習・摂食指導等を充実させるとともにメンタルヘルスや自己肯定感を育む取組の推進	・からだの支援会議（小中高 年２回） ・動作の学習、摂食指導の研修（小中高 年１回・健康とからだの研修（訪 年１回） ・PT・OT・PSW・SSW・SC等関係機関との連携	・からだの支援会議各学部年２回実施 ・自立活動部長、外部専門家の研修 ・各専門家との連携をケースに応じて実施	今年度の取組実績を生かし肢体不自由校の専門性の確保のために学校内外の資源を活用できるよう取り組む	緊急対応も含め、目標値の達成に向けた取組が実施されている。今後も継続的に取り組んでいただきたい。 主治医や専門医を招聘した研修を継続させ関係文書の改訂など現状に即した形にしていくことは大切。ヒヤリハットの積み重ねはとても重要。それが充実しているから保護者も安心して通わせているのではと推測している。
	障害の状態を踏まえた安心安全な教育環境づくりの推進	医療的ケアを安心安全に実施できる体制の継続	・医療的ケアの研修（小中高 学期１回） ・緊急時対応シュミレーション（小中高 年２回以上）全校緊急時対応シュミレーション（年１回） ・医療的ケア実施手続きの整理と全校医療的ケア報告会（年２回）	・医療的ケア共通理解が必要な医療的ケア研修を実施 ・様々な緊急時を想定して実施 ・医療的ケアの緊急時マニュアル等の見直しを行う ・全校医療的ケア報告会年２回実施	医療的ケアを安心安全に実施できるよう研修やシュミレーションを継続。手続きでは指示書、承認書の改定を行い次年度本格使用	
	運動習慣向上のための取組の推進	障害者スポーツ大会への参加率を中・高で10パーセント	・積極的な障害者スポーツの体験（小中高 年間最低2種目） ＜ボッチャ、陸上競技、フライングディスク、水泳、ボウリング、フットベースボール、ゴールボール、卓球、ゴロ卓球＞	・各学部から実施したい競技をリサーチし必要な道具を準備 ・各学部２種目は実施できなかった	障害者スポーツ大会の競技や学校で実施できる競技の一覧表を配布し道具を活用し様々なスポーツに親しめるよう発信する	
２．学ぶ力、考える力、探究する力をはぐくむ	児童生徒の実態に応じた教育課程による系統的な指導の推進	適切な実態把握を行い、根拠のある目標設定に基づいた授業実践	・児童生徒の適切な実態把握、根拠ある目標設定のための研修 ・Sスケール研修（全校３回・小中高訪 学期１回） ・Co-MaMeを活用した実態把握の実施（病 学期1回）	・Sスケール、Co-MaMe等部門や学部に応じて実施 ・授業を取り上げたりビデオを活用して学期に複数回実施 ・今年度は２回の実施。具体的な事例を通して研修を行う	Sスケール、Co-MaMe研修は年度末のゴールを共有し学部に応じて来年度も継続。全体研修も継続実施	個々の力をはぐくむとともに、ICTなどの学習環境作りに今後も取り組んでいくことが大切。ICT機器の使用が目的となってしまわないように意義を常に確認しながら進めていくことが大切
	ICTを活用した教育の充実	児童生徒の実態に応じたICT機器、視線入力装置、アプリなどを活用し主体的に参加できる授業や行事の充実	・オンラインを活用した行事や交流及び共同学習 ・児童生徒の実態や課題に応じたICT活用による学習支援 ・会議等におけるICT機器の活用	・来校が難しい児童生徒も行事や交流等に参加可能となった ・デジタル教科書の活用、自宅とのリモート授業を実施 ・Chrome book研修８回実施、９月より職員会議で活用	授業や会議でのICT活用が少しずつ進んできている。次年度は「ICT活用部」として研修や事例の積み上げを目指し取り組む	
	危機発生に備えた対策の推進	災害発生時や傷病者発生時における教職員の対応力の向上	・災害避難学習，訓練、検証（年３回） ・BCP（災害時における事業継続計画）の検証（年２回）と明日香村との協議（年１回）	・予定通り実施 ・BCPファイル作成し校長室、職員室に設置 ・明日香村との福祉避難所に関わる協議を３回実施	災害に備えた物資準備やBCPの検証は次年度も継続。明日香村との連携も次年度継続	
３．働く意欲と働く力をはぐくむ	キャリア発達を促す授業づくりを推進	１２年間を通じて各ステージで必要なキャリア発達について整理・共有	・小「せいかつ」中「たちばなタイム」高「仕事」の合同授業会議を通じてキャリア発達を促す授業内容や工夫、付けたい力などの情報共有及び整理（学期１回） ・様々な取組や行事においてキャリア発達の視点を踏まえた目標設定と振り返り	・中高は目指す力や取組等の情報共有ができ有効であった ・役割ややりがいを意識できるように「キレイキレイ大作戦」に取り組む	B課程は継続して他教科の授業について連携 C課程は合同授業会議で年間指導計画を作成していく予定	今後も安心安全に体験学習等の機会を確保していくことが大切。授業公開や番組を作成して公開していく方法も考えられる。 懇談内容を１２年間積み上げていくことは大切である。長い取組の中で、保護者の思いの軌跡などはよい資料になる。保護者に対しても１２年間にわたって進路を意識して取り組んでいただけるようにしていくのも大切。
	人や社会とのつながりを広げる取り組みの推進	支援体験学習、進路体験学習、スクーリングに向けた取り組みの積極的な推進	・支援体験学習（中 年１回） ・進路体験学習（高 年２回 訪病 適宜） ・社会参加に向けての校外学習（病 年２回程度）	・中学部支援体験学習は感染症対応で中止が多かった ・高等部１．２年は２カ所複数回実施、３年は進路決定に向けて必要回数実施 ・これまで参加が難しかった生徒の校外学習を実施することができた	学部や学年に応じて目的を明確にしながら継続して実施	
	卒業後を見据えた進路情報の提供	保護者懇談、学部通信、研修等を通した積極的な情報発信	・学部通信や保護者懇談会と通じた情報発信 ・進路研修会（全校 年１回・小中高 年１回） ・児童生徒の実態や家庭のニーズに応じた事業所や就労先等との連携	・定期的に通信を発行、送迎時や保護者会等で情報発信 ・保護者向けの進路研修会は新型コロナウイルス感染要望で実施できなかた ・各担任と連携を図りながら進路部が中心となり取り組む	学部に応じて必要な情報を継続して発信。 「進路の手引き」は6月には配布したい。高等部進路決定に向けて実習ー振り返りのサイクルが定着しスムーズに進められているので継続実施	
４．地域と協働して活躍する人を育てる	地域資源を活用した学習の推進	地域の協働推進事業の推進及び児童生徒の実態や課題に応じた地域資源の活用	・ふれあいわくわく学習会（小 年１回） ・地域の協働推進事業（中高 年１回） ・遠足、校外学習等（訪 年２回） ・奈良TIME，社会参加活動（病）	・11/25ふれあいわくわく学習会ビアノの連弾実施 ・10/6地域の協働推進事業あすかのいちごを育てよう実施 ・5/21春の遠足、7/2夏祭り10/1秋の遠足10/14歯ブラシメーカー「タナベ」 ・今年は病弱部門だけでなく中学部高等部(肢）が協力して万葉文化館等に置く「しおり」を作成	今年度は県での発表を行う。取組実績を生かして次年度以降に持続できるよう取り組む。地域資源を活用しながら児童生徒の興味関心や実態に応じた取組を継続	分掌が連携しながらセンター的役割を行っていることは大切なこと。からだの学習会などには経験の浅い教員も一緒に参加していくことで人材育成につながっていくのではないか。教員志望の大学生にボランティア活動に関わってもらえるよう大学に働きかけていくのもよい。地域資源を活用した学習の推進では卒後、実社会で生きる力（本物の力）を育てることにつながる。今後は行政機関の福祉担当者にも委員に入ってもらうのもよい。
	センター的な役割の推進	専門性を生かしたセンター的役割の推進	・学校見学会、体験学習、教育相談 ・「あすかで発見」８／３ ・「五條市からだの相談会」８／２３	・学校見学会56名申込２日間追加日を設定し対応、教育相談のべ回数227回(12月末) ・あすかで発見42名参加申込・からだの相談会８名参加	今年度の取組実績を生かし、各分掌と連携を図りながらセンター的役割を果たせるよう継続して取り組む	
	学校運営協議会の運営・推進	学校運営協議会の意見を反映した学校運営の推進	・学校運営協議会の設置７／１、協議会開催（9/16・1/17）	・9/16予定通り実施、1/17書面開催	継続実施	
５．地域で個性が輝く環境と仕組みをつくる	いじめ防止対策や人権を尊重する意識の向上	いじめや不登校、人権に関わる研修の実施	・人権研修に係る研修（年１回） ・いじめ防止対策研修（年１回）	・「子どもの目線になって関わりを考えてみよう」研修の実施 ・職員会議で周知を図る	研修は好評だったので次年度も継続する、いじめ防止基本方針の見直しの予定	風通しのよい教育環境を継続し、トライアングルプロジェクトを意識した関わりを実施していってほしい。福祉サービス内容等の情報は教職員全員が身につけておくべきことと感じる。今後も取組を継続させていくことが大切。教育支援委員会などでも福祉関係の研修を行う時があるが一人一人の委員がしっかり学校内で共有していくことも大切。
	多様性を尊重し仲間と触れ合い共に活動する取組の推進	児童生徒会活動及び居住地校や学校間の交流及び共同学習を推進	・明日香小学校、聖徳中学校、高取国際高等学校との学校間交流（年３回） ・居住地校交流（年１～３回） ・挨拶運動（毎月）クラブ活動（学期２回）クリーンキャンペーン（年１回）等	・リモートによる交流、作品交流等　年１～２回実施 ・居住地校交流希望者小学部24名中学部３名 対面で実施するケースが多かった。まだ実施に至っていないケースもある ・予定通り実施	交流及び共同学習は相手校や保護者と連携しながら継続実施。取組方法やねらいなどを互いに確認しながら実施	
	個別の教育支援計画、個別の指導計画を活用した切れ目ない支援の実現	保護者との連携、福祉や医療、労働等の関係機関と連携を図り、付けたい力や具体的支援の共有	・保護者と長期目標や短期目標、手立ての共有 ・利用事業所や実習先、進路先等との情報を共有	・個人懇談や学期末懇談時に共有 ・送迎時に情報共有、夏期休業中に見学連携、保育所等訪問支援事業で連携	事業所との情報共有は送迎時等で実施してきたが、次年度もできる範囲で場を設定するなど福祉との連携の在り方を探る	

３　評価結果の分析、今後の改善方策等

この用紙にまとめるにあたり、明日香バージョンとして、それぞれの項目ごとに、各学部や各分掌において、令和4年度の目標、令和４年度末の状況等について整理する作業を行った。これまで取組が一覧になって整理されたことで、令和５年度さらに重点的に取り組むべき内容と毎年継続させていく内容が明確に意識できた。令和５年度は教育課程の検討、ICT活用に関する取組に重点をおき。単年度の目標と長期的な目標を明確にしながら取り組んでおきたい。